

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2019年度 国際共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2020年 5月 27日 提出

1. 研究課題名	
ARC所蔵の短編映画に見る第二次大戦後のフランスの観光イメージ-旧日仏学館蔵のフランスの短編映画を通して(旧課題名:戦後フランス紹介短編映画と観光戦略)	
(英文課題名:)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
島本 澁 (しまもと かん)	京都精華大学名誉教授
3. 研究分担者 (合計: 1 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
細井 浩一 (ほそい こういち)	立命館大学・衣笠総合研究 機構長・アート・リサーチセンター長
4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)	
<p>近年、観光の文化研究は人文諸学の中で重要な地位を占めるようになってきた。本研究は、立命館大学 ARCに寄贈された、旧日仏学館関西所蔵であったフランス短編映画を題材とした観光文化学の試みである。短編映画に映し出された第二次大戦後の自然・文化には、戦後フランスの文化的眼差しが表象されている。その分析から研究が始まるが、準備段階として、何よりも「劣化しつつあるフィルムデジタル化」が不可欠となる。デジタル資料化してこそ分析が可能になり、本研究の基礎となる。本研究はまた、日本の観光研究にとっても重要な視点をもたらすものと考えている。</p>	
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)	
<p>研究初年度の資料のデジタル化は、京都のおもちゃ映画ミュージアムに協力をお願いし、ミュージアム代表の大阪芸術大学教授太田米男氏と連携することとしたが、残念ながら予算の関係から実現できなかった。このデジタル化は予算を得て来年度以降実現することとし、本年度は①資料の基礎的データ調査と、②フランスの観光政策における世界のフランス会館(日本での日仏会館)の役割を歴史的に調査した。①に関して:短編映画寄贈の折に(おそらく)添付されていたリストには、I 娯楽 映画-子供向け映画-アニメ映画として67本、II 地理と観光として116本、III 美術と写真として145本、全体で328本の短編映画が記録されている。これらの短編映画はフランス語授業の補助テキスト、フランス紹介イベント等に使用されたと思われる。この使用方法についての調査は来年度に行う予定だが、このリストからもフランスの観光イメージ戦略の一端が理解される。都市や風土の紹介だけでなく、美術・芸術がフランス紹介の重要な要素になっていることがわかる。私たちの持つフランス・イメージと重なる。来年度はデジタル化をふまえて、このイメージの歴史的分析和戦後フランスの観光戦略との関係を研究するつもりである。</p>	
6. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)	

(1) 著書

(2) 論文

「市民メディアとしての『京都 TOMORROW』("KYOTO TOMORROW" as Citizen Journalism) 共著、2020年3月、立命館大学アート・リサーチセンター、『アート・リサーチ』20号、小黒純、樋口摩彌、pp.37-52、査読有

(3) 研究発表等

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

(6) 受賞学術賞

(7) 科学研究費助成事業

(8) 競争的資金等(科研費を除く)

(9) その他